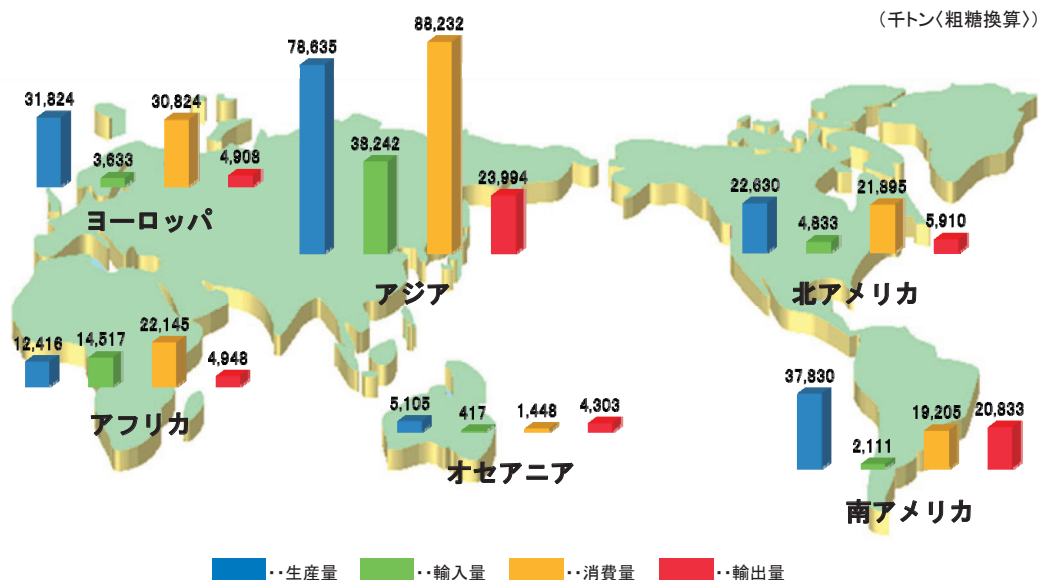


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2018年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,979	160,315	56,023	164,755	56,244	50,317	30.5
2013/14	62,957	184,058	58,323	175,811	61,044	68,483	39.0
2014/15	68,483	183,717	59,707	177,488	62,081	72,338	40.8
2015/16	72,338	175,955	67,776	180,125	69,077	66,868	37.1
2016/17	66,868	180,442	68,525	179,979	69,937	65,919	36.6
2017/18 (2018年6月予測)	65,732	195,201	62,244	178,807	67,693	76,676	42.9
2017/18 (2018年9月予測)	65,919	193,649	64,777	180,458	67,830	76,057	42.1
2018/19 (2018年9月予測)	76,057	188,440	63,753	185,014	64,896	78,339	42.3

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2018」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年10月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001823.html

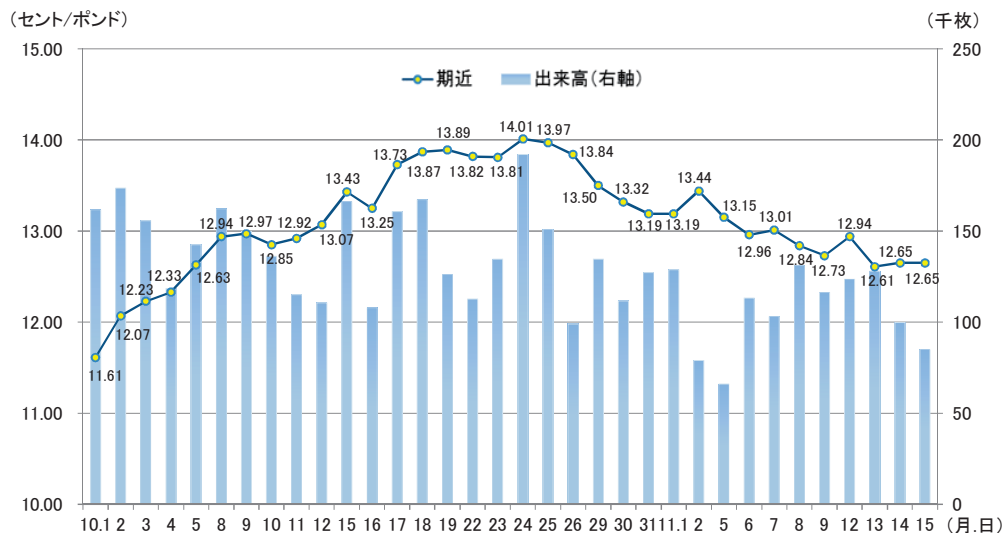
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001824.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（10/1～11/15）

～減産見通しを受け14.01セントまで上伸するも、供給過剰への懸念根強く再び下落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）

注：3月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（3月限）^{がつぎ}2018年10月の推移を見ると、期近限月が切り替わった1日は、前週末比1.19セント高の1ポンド当たり11.61セント^{（注1）}まで上昇し、今年最大の上げ幅を記録した。なお、前週末の同じ月限（3月限）の終値と比べると0.41セント高となる。7日に投開票を控えたブラジルの大統領選挙直前の世論調査で、支持率トップの候補がバイオエタノール政策をさらに推し進める可能性があるとの見方が広がったことから、3日も値を上げ同12.23セントとなった。週明けの8日は、ブラジルの大統領選挙の結果がほぼ予想通りとなり、^{あん}安堵感などから総じて上昇した金融市場を映して、同12.94セントまで値を上げた。その後、もみ合いながら12日に同13.07セントまで上昇し、15日はリアル高が進行したことでブラジルの砂糖輸出が抑制されるとの見方から、同13.43セントまで値を上げ2018年3月の水準まで回復した。16日は4営業日ぶりに反落し、同

13.25セントの値を付けたが、17日は反発し、同13.73セントと7カ月ぶりの水準となった。その後はもみ合いが続いたが、世界各地で極端な気象現象が続いた影響から主要生産国が生産見通しを下方修正するなどしたため、24日には同14.01セントまで上昇した。しかし、砂糖の供給過剰への懸念が根強く25日は下落に転じ、31日は同13.19セントまで値を下げた。

11月2日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注2）}が前日に発表した10月の生産実績がかなり低水準であったことを受け、同13.44セントまで値を上げたものの、その後は買いが続かず再び下げに転じ、5日は同13.15セントとなった。その後も、相場を押し上げる材料が乏しく、じりじりと値を下げる展開となり、9日は同12.73セントまで値を下げた。週明けの12日はわずかに値を戻し同12.94セントの値を付けたものの、15日は同12.65セントとなった。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2018年11月時点予測)

本稿中の為替レートは2018年10月末日TTS相場の値であり、1インド・ルピー＝1.70円である。

ブラジル

2018/19年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：869万ha (前年度比1.3%増)

生産量：6億200万トン (同6.1%減)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：3071万トン (同26.0%減)

輸出量：1950万トン (同37.1%減)

2018/19年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に減少する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) の2018年11月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2018/19砂糖年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、869万ヘクタール (前年度比1.3%増) とわずかな増加が見込まれている。一方、生産量は、北東部地域の全域と中南部地域の一部で高温少雨が続き、生育の遅れが見られることから、6億200万トン (同6.1%減) とかなりの減少が見込まれている (表2)。砂糖生産量は、サトウキビの減産に加え、砂糖価格よりエタノール価格が高く推移し、サトウキビをバイオエタノール生産に仕向ける動きが加速すると予測されるため、3071万トン (粗糖換算 (以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算)、同26.0%減) と大幅な減少が見込まれている。輸出量は、主要輸出相手国である中国が追加関税措置を実施していることなども影響して、1950万トン (同37.1%減) と大幅な減少が見込まれている。

10月のサトウキビ生産量、天候不順の影響で過去5カ年の最低

UNICAの発表によると、ブラジル中南部地域における2018年10月下旬のサトウキビ生産量は、数週間の天候不順による収穫作業の遅れから、2486万トン (前年同月比17.5%減) と大幅に減少し、過去5カ年の10月の実績として最低の生産量を記録した。この影響で、2018年4～10月のサトウキビ生産量は5億834万トン (前年同期比4.4%減) とやや減少し、今期の生産量は前年比増の従来予測から一転して前年度を下回る可能性がある。同時期の砂糖生産量は、砂糖の国際価格の低迷により製糖業者の多くがエタノール生産への仕向け割合を増やしていることから、2435万トン (同26.7%減) と大幅に減少した。なお、10月末時点のサトウキビの砂糖生産への仕向け割合は、35.9%と過去最低の水準で推移している。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

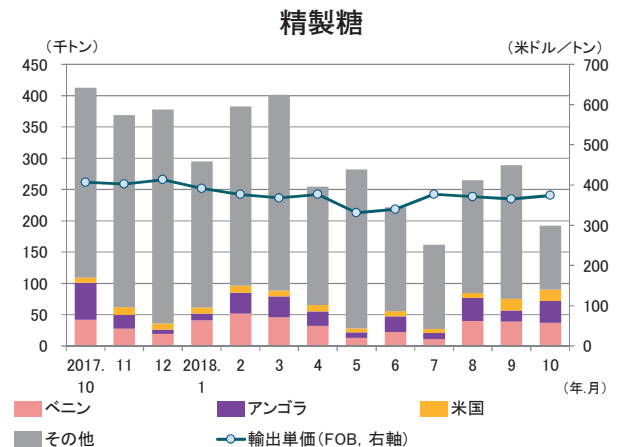
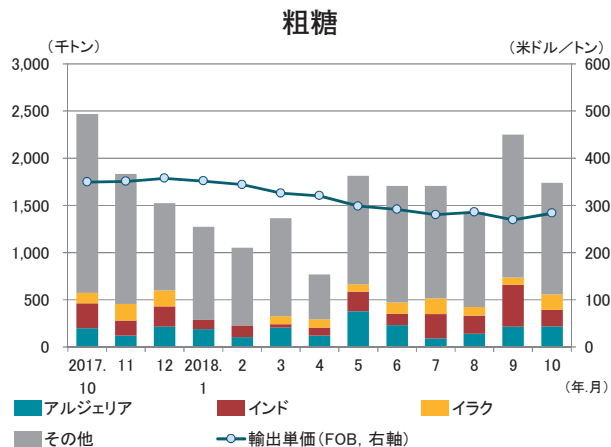
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,188	8,474	8,570	8,685	8,685	1.3
サトウキビ生産量	666,824	651,841	640,860	595,000	602,000	▲ 6.1
砂糖	生産量	36,472	41,670	31,700	30,710	▲ 26.0
	輸入量	1	4	2	3	25.0
	消費量	12,057	11,502	11,100	11,211	1.0
	輸出量	26,023	30,117	30,991	19,496	▲ 37.1
	期末在庫量	739	794	196	202	3.1
	期末在庫率	1.9	1.9	0.5	0.7	0.19 ポイント増

資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018]

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

インド

2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 506万ha (前年度比4.9%増)

生産量: 3億6646万トン (同6.8%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 3343万トン (同3.7%減)

輸出量: 416万トン (同8.0%減)

2018/19年度、砂糖生産量はやや増加する一方、輸出量はかなり減少する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は506万ヘクタール(前年度比4.9%増)とやや増加が見込まれるものの、豪雨や干ばつ、害虫の大量発生がサトウキビの生育を阻害しており、3億6646万トン(同6.8%減)とかなりの減

少が見込まれている(表3)。砂糖生産量は、製糖歩留まりが上昇傾向にあることなどを踏まえ、3343万トン(同3.7%減)とやや減少すると見込まれている。これにより、インドはブラジルを抜いて世界一の砂糖生産国となる公算がさらに高まった。輸出量は、2017/18年度の見込み数量が大幅に上方修正(216万トン増)された影響に加え、政

府が製糖業者に対し500万トンの最低輸出義務を課すものの、生産コストが国際価格を上回る現状にあり、その実現可能性については懐疑的な見方も多いことなどを踏まえ、416万トン（同8.0%減）とかなりの減少が見込まれている。

インド商工省、中国向けの砂糖輸出量200万トンを目指す

インド商工省は、中国向けの砂糖輸出量について2019年に200万トンを目指すとして発表した。これに先立ち、インド砂糖工場協会（ISMA）と中国最大の食品会社である中粮集团有限公司（COFCO）との間で、1万5000トンの粗糖輸出契約が締結された。直近2カ年の砂糖の中国向け輸出はわずかであるが、インドは今回の計画を通じて中国に対する貿易赤字と国内の過剰在庫を削減する狙いがある。同省は「インド産の砂糖は、収穫から圧搾するまでに要する時間が短く、品質が高い。今後中国にとって、インドは主要な砂糖輸入相手国となるだろう」と述べ、砂糖を中国向け輸出製品の第2位まで押し上げたいと考えている。また、インドは近隣諸国のマレ

ーシアやインドネシアに対しても砂糖輸出の拡大に向け交渉を進めており、全体の輸出量も増加する可能性がある。

ウッタール・プラデーシュ州生産者、州政府にサトウキビ価格の引き上げを求める

現地報道によると、インド最大のサトウキビ産地であるウッタール・プラデーシュ州では、サトウキビ生産者が州政府に対し、1トン当たりのサトウキビの適正価格を現行から27%引き上げ、4000ルピー（6800円）とするよう求めた。背景には、燃料代や肥料代などの農業資材費の高騰がある。しかしながら、現時点で製糖業者は2017/2018年度に生産者に支払うべき原料代の2割程度しか精算できておらず、州政府が生産者の求めに安易に応ずれば、製糖業者の負債はさらに膨らむこととなる。結果として、製糖業者の廃業や撤退が相次ぎ、サトウキビ産業全体の衰退を招きかねない。他方、2019年に総選挙を控え、政権与党は農村部の有権者の支持獲得に全力を挙げていることを踏まえると、州政府は極めて難しい判断を迫られることになる。

表3 インドの砂糖需給の推移

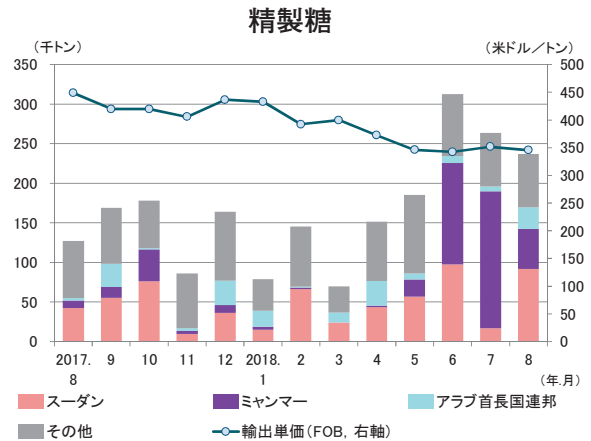
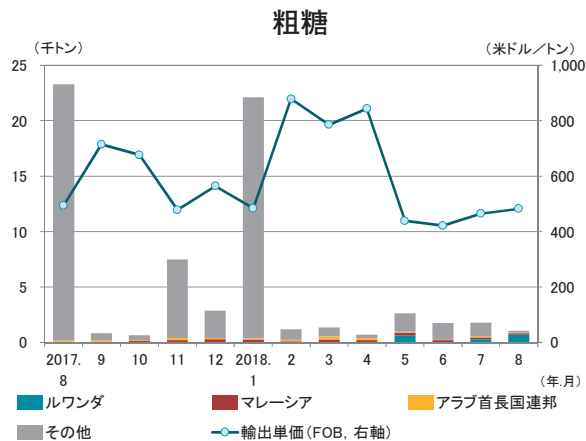
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		4,806	4,327	4,827	5,120	5,062	4.9
サトウキビ生産量		356,871	306,070	393,320	387,983	366,458	▲ 6.8
砂糖	生産量	27,091	21,848	34,720	36,661	33,426	▲ 3.7
	輸入量	2,146	2,536	1,232	2,191	1,126	▲ 8.6
	消費量	26,784	26,568	27,540	28,084	28,083	2.0
	輸出量	3,955	2,233	4,521	3,548	4,160	▲ 8.0
	期末在庫量	8,370	3,952	7,843	15,198	10,152	29.4
	期末在庫率	27.2	13.7	24.5	48.0	31.5	7.0 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：126万ha（前年度比2.6%増）

生産量：7889万トン（同2.8%増）

【てん菜】

収穫面積：22万ha（同20.5%増）

生産量：1118万トン（同16.6%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1157万トン（同3.8%増）

輸入量：560万トン（同7.3%減）

2018/19年度、砂糖生産量はやや増加、輸入量はかなり減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は126万ヘクタール（前年度比2.6%増）、生産量は7889万トン（同2.8%増）と、ともにわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜の収穫面積は22万ヘクタール（同20.5%増）、生産量は1118万トン（同16.6%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。砂糖生産量は、良好な天候に恵まれ原料作物の増産が期待できることから、1157万トン（同3.8%増）とやや増加が見込まれているが、依然として消費量を大きく下回る水準である。輸入量は、560万トン（同7.3%減）とかなりの減少が見込まれている。

9月の砂糖輸入量、引き続き好調な伸び

中国税関総署が10月24日に発表した2018年9月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は前年同月比17.4%増、前月比26.7%増の19万トンであった。これにより、2017/18年度の輸入量は、砂糖の輸入に追加関税^(注)を課しているにも関わらず、前年度比6.4%増の243万4000トンに達した。ただし、国内の生産量では需要が追いつかない状況が続いているため、周辺国で生産された砂糖を国境が接するミャンマーから密輸入する業者が後を絶たず、その数量は正規の輸入量と同等もしくはそれ以上とされていることから、実際の輸入量はさらに多いものとみられる。

(注) 追加関税は2017年5月から適用されており、その税率は1年目が45%、2年目が40%、3年目が35%と段階的に引き下げられることとなっている。

表4 中国の砂糖需給の推移

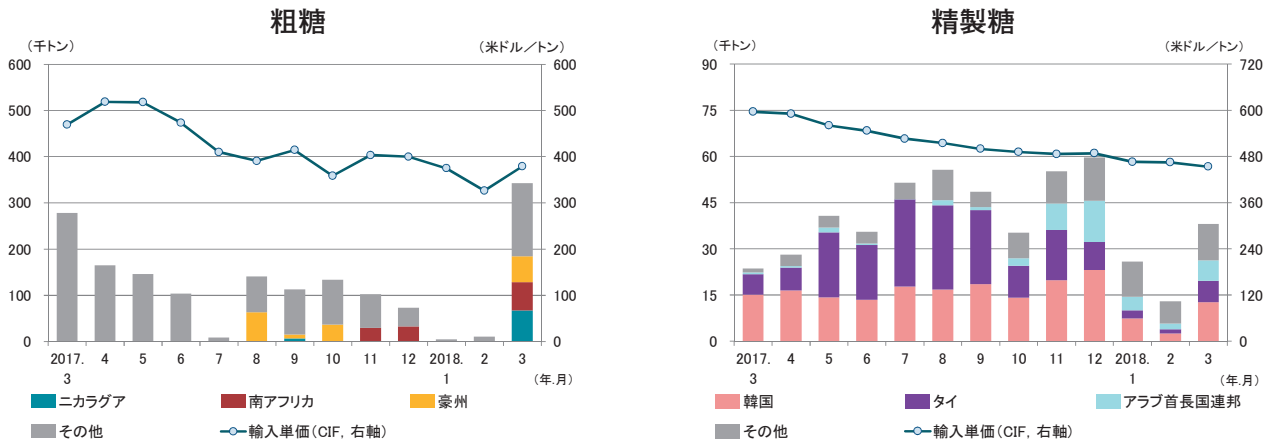
(単位: 千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,311	1,178	1,231	1,245	1,263	2.6
サトウキビ生産量	74,950	73,690	76,780	77,749	78,892	2.8
てん菜収穫面積	136	168	186	224	224	20.5
てん菜生産量	6,880	8,820	9,590	11,182	11,182	16.6
砂糖	生産量	9,405	10,041	11,418	11,569	3.8
	輸入量	7,910	5,877	6,450	5,600	▲ 7.3
	消費量	16,847	16,847	17,016	17,016	0.5
	輸出量	181	146	154	154	15.8
	期末在庫量	11,926	10,851	10,976	10,976	▲ 0.0
	期末在庫率	70.0	63.9	64.3	63.9	0.4 ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコード1701.14(粗糖) および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2018/19年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積: 172万ha (前年度比0.8%減)
生産量: 1億1666万トン (同14.0%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量: 1844万トン (同14.7%減)
輸出量: 163万トン (同57.5%減)

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少し、 輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度(10月～翌9月)てん菜の収穫面積は172万ヘクタール(前年度比0.8%減)とほぼ横ばいで推移すると見込まれているが、生産量は1億1666万トン(同14.0%減)とかなりの減少

が見込まれている(表5)。これにより、砂糖生産量は1844万トン(同14.7%減)とかなり減少する見込み。域内における異性化糖の供給不足を砂糖で相殺する動きが予測されるほか、砂糖の期首在庫量が減少していることを考慮して、輸出量は163万トン(同57.5%減)と、大幅な減少が見込まれている。

日本とのEPA案、委員会審議で可決

欧州議会は11月5日、貿易委員会で審議していた日本との経済連携協定（EPA）案が賛成多数で可決され、同案は欧州議会本会議に送付されたと公表した。EPA案は今後、12月に開かれる欧州議会本会議で採決される見通しである。日・EUEPAは、日本とEU双方の手続きが完了した翌々月の1日に発効すると定められており、早ければ2019年2月1日が発効日となる見込みとなった。

今回公表された資料の中で貿易委員会は、「世界は今、保護主義的な政策を強める国々と対峙しなければならぬ状況にある中、今回のわれわれの決定は、自由・公正で開かれた質の高い貿易を支持するシグナルとなった」と決議の意義を強調した。

メルコスールとのFTA交渉、年内合意を先送りか

現地報道によると、欧州委員会のフィル・ホーガン委員（農業・農村開発担当）は「メルコスール^{（注）}とのFTA交渉は、年内に合意することはない」と

述べ、来年1月に就任するブラジルの次期大統領の外交姿勢が明らかになるまで交渉を行わない可能性を示唆した。

EUとメルコスールとの間での自由貿易協定（FTA）交渉をめぐっては、20年にも及ぶ交渉の末、今年に入りようやく双方が歩み寄りを見せ、2018年内合意に向けた機運が高まっていた。しかし、10月に極右候補のジャイル・ボルソナロ氏がブラジルの次期大統領に決まったことで、双方ともに同氏抜きで合意することに慎重な意見が見られた。今回のフィル氏の発言は、こうした意見を踏まえた対応とみられる。

他方、フィル氏は依然として牛肉、砂糖、エタノールなどの主要農産物の市場開放に対して否定的な考えをにじませており、年明けにも始まる交渉で合意できるかは予断を許さない状況にある。

（注）ブラジルなど南米4カ国で構成される南米南部共同市場。

表5 EUの砂糖需給の推移

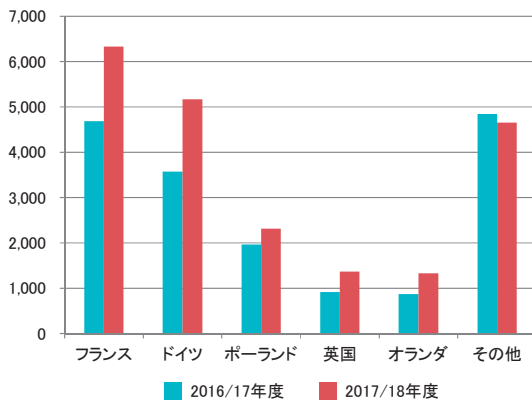
（単位：千ha、千トン、％）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		1,364	1,467	1,732	1,719	1,718	▲ 0.8
てん菜生産量		94,855	108,023	135,661	120,329	116,655	▲ 14.0
砂糖	生産量	14,937	17,521	21,625	18,842	18,438	▲ 14.7
	輸入量	3,651	3,115	1,685	1,522	1,576	▲ 6.5
	消費量	19,481	19,139	19,159	18,431	18,779	▲ 2.0
	輸出量	1,501	1,510	3,840	3,422	1,631	▲ 57.5
	期末在庫量	1,913	1,901	2,211	1,183	1,816	▲ 17.9
	期末在庫率	9.1	9.2	9.6	5.4	8.9	0.7 ポイント減

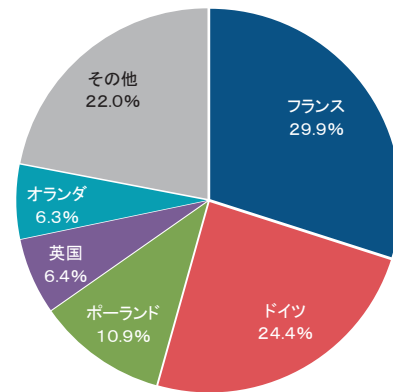
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2018年9月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2017/18年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2018年11月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。本稿中の為替レートは2018年10月末日TTS相場の値であり、1フィリピン・ペソ=2.26円である。

豪 州

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3279万トン（同1.7%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：449万トン（同0.6%増）

輸出量：345万トン（同3.2%減）

2018/19年度、砂糖生産量はわずかに増加、輸出量はやや減少の見込み

2018/19砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれるが、夏期にクイーンズランド州とニューサウスウェールズ州で発生した干ばつの影響を受けて、生産量は、3279万トン

（同1.7%減）とわずかな減少が見込まれている（表6）。砂糖生産量は、449万トン（同0.6%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。これにより、輸出量は345万トン（同3.2%減）とやや減少すると見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会、TPP11協定の発効を歓迎

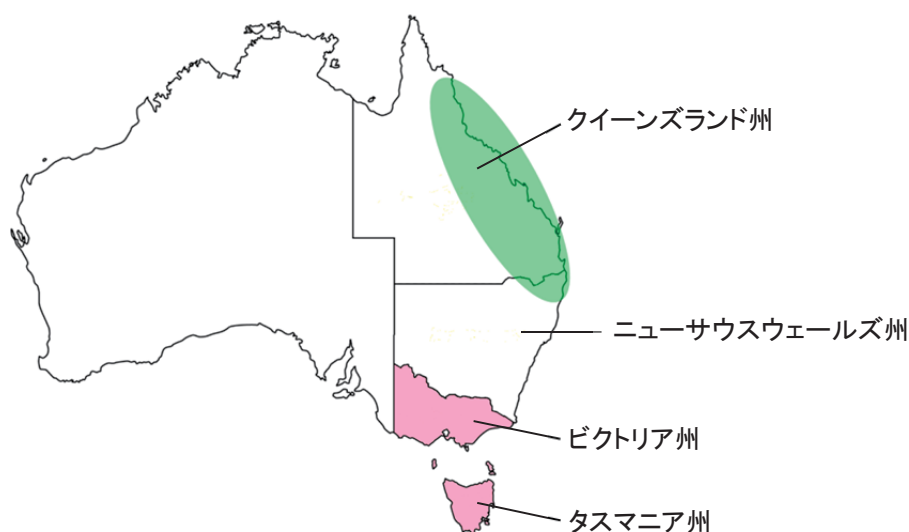
豪州砂糖製造業者協議会（Australian Sugar Milling Council）^{（注）}は10月31日、TPP11協定が発効要件を満たしたことを受け、声明を発表した。声明では、「豪州の砂糖産業は新たな輸出の機会を得た」と述べるとともに、交渉にあたったサイモン・バーミンガム貿易投資大臣に感謝の意を伝えた。豪州の製糖業者は、TPP11協定の恩恵を最大限に享受し、さらなる輸出拡大を図りたいと考えている。特に、主要な輸出相手国である日本に対しては、2015年1月に発効した日豪EPAよりも有利な条件で砂糖を輸出できるようになるため、日本市場でのシェア拡大に期待を寄せている。米国農務省（USDA）の報告によると、豪州では、健康志向の高まりから、中長期的に1人当たりの砂糖消費量が減少し、国内の需要が低迷すると予測されているが、TPP11協定の発効によって砂糖輸出量が増加すれば、結果として砂糖業界に恩恵がもたらされると考えられる。

（注）豪州の製糖業者が加盟する団体。

ドイツの種苗会社、豪州でてん菜の栽培に踏み出す

現地報道によると、ドイツの種苗会社KWS社は、豪州南部の比較的冷涼な地域であるタスマニア州とビクトリア州で、てん菜の栽培実験を行うと発表した。てん菜を原料とした砂糖生産の商業化を実現するため、豪州の気象や土壌条件に適する5種類の新品種を新たに開発して実験を行う。計画では、まずタスマニア州の圃場^{ほじょう}で試験的に作付けし、研究成果を見ながらビクトリア州の圃場にも作付けを広げる。てん菜は、他の根菜類と比べ安定的な収入が得られ、かつ新たな輪作作物としても活用できると期待されている。また、ビクトリア州では、既に飼料用てん菜（ビーツ）が栽培されているため、そのノウハウをてん菜にも応用できると見ている。同社は、今回の栽培実験を通じて同国での製糖事業への投資も視野に入れているとみられる。

図3 ビクトリア州およびタスマニア州の位置



注1：ピンク色の網掛けは、てん菜の栽培実験が行われる州を指す。

注2：緑色の網掛けは、サトウキビの主要な生産地域を指す。

豪州政府、インド政府の砂糖政策に対し異議申し立て

豪州政府は11月16日、インド政府が砂糖産業に対して手厚い支援措置を行い続けていることをめぐり、11月26日開催の世界貿易機関（WTO）農業委員会でこの問題を議題に挙げると発表した。同政府は、インド政府の生産者に対する補助金がWTO協定で認められている範囲を超えて交付されている

と主張し、「インド政府による補助金がどれだけ市場競争を歪曲^{わいきよく}させているのかを、WTOの協議の場で明らかにする」と述べた。

これに対しインド政府は、「補助金は、砂糖の輸出促進を目的としたものでなく、自国の生産安定に必要な措置で、WTO協定に反していない」と述べ、争う姿勢を示した。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積		382	368	376	386	385	2.5
サトウキビ生産量		34,941	36,506	33,344	33,576	32,785	▲ 1.7
砂糖	生産量	4,889	4,797	4,463	4,779	4,490	0.6
	輸入量	164	68	29	29	29	0.0
	消費量	1,196	1,172	1,125	1,080	1,080	▲ 4.0
	輸出量	4,384	4,004	3,564	3,729	3,449	▲ 3.2
	期末在庫量	1,267	955	758	774	748	▲ 1.3
	期末在庫率	22.7	18.5	16.2	16.1	16.5	0.4 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.9%増）
生産量：1億2500万トン（同7.4%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1439万トン（同7.7%減）
輸出量：1289万トン（同27.9%増）

2018/19年度、砂糖生産量はかなり減少する一方、輸出量は大幅増の見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、179万ヘクタール（前年度比0.9%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている。生産量は、台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過した影響でサトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生していることから、1億2500万トン（同7.4%減）とかなり減少すると見込まれている（表7）。これに伴い砂糖生産量は、1439万トン（同7.7%減）とかなりの減少が見込まれている。一方、

輸出量については前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するため輸出を強化するとみられることから、1289万トン（同27.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

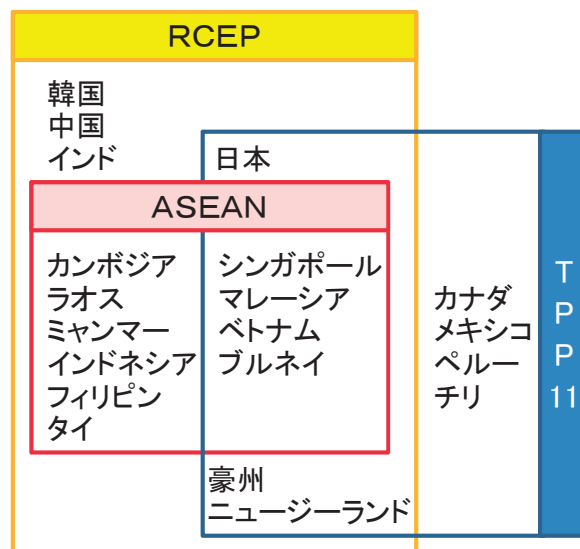
RCEP交渉、2019年の合意を目指す

11月14日、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）交渉に参加する16カ国による首脳会議がシンガポールで開かれた。会議終了後に発表された共同声明では、包括的で質の高い互恵的な経済連携協定を目指す方針が再確認され、「2019年に合意

する決意である」と明記された。また、議長を務めたシンガポールのリー・シェンロン首相は、RCEP交渉が最終段階に入っていることを明らかにした。

アセアン（ASEAN）の議長国は、2019年1月1日付けでタイに交代する。RCEP関連会議の議長国は、ASEAN議長国が兼務することが通例となっていることから、2019年のRCEP交渉の舞台はタイに移ることとなる。急激な関税引き下げに慎重な姿勢を続けるインドと、自由で開かれた貿易体制を望む日本、豪州などとの間の溝は依然として深く、加えて、保護主義の台頭や激化する米中貿易摩擦などを背景に各国の利害が複雑に絡み合う状況となっており、今後の議長運営はこれまで以上に難しさを増すと予想される。

図4 アジア・太平洋地域における経済連携の状況



資料：外務省のホームページを基に農畜産業振興機構作成
注：2018年10月現在。

表7 タイの砂糖需給の推移

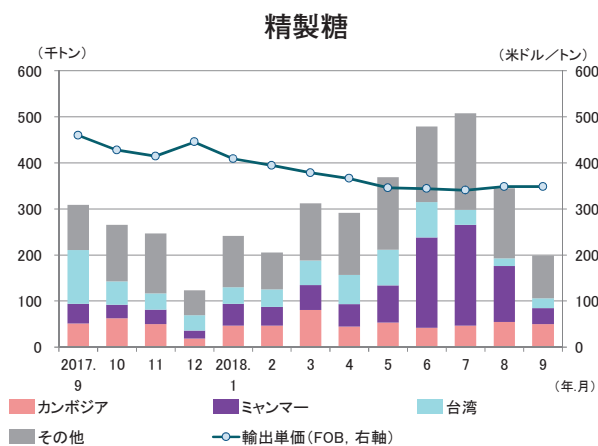
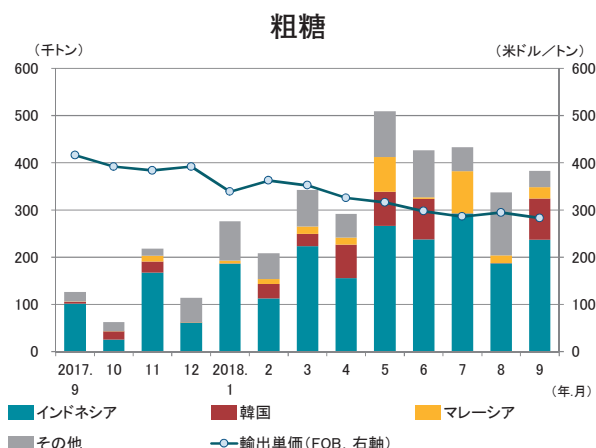
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (10月予測)	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,644	1,578	1,776	1,792	1,792	0.9
サトウキビ生産量	94,047	92,951	134,929	127,200	125,000	▲ 7.4
砂糖						
生産量	10,402	10,657	15,586	14,638	14,385	▲ 7.7
輸入量	1	0	1	1	1	0.0
消費量	3,272	3,283	3,505	3,294	3,294	▲ 6.0
輸出量	7,932	7,393	10,077	13,447	12,887	27.9
期末在庫量	3,970	3,951	5,956	3,946	4,161	▲ 30.1
期末在庫率	35.4	37.0	43.9	23.6	25.7	18.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

フィリピン

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：42万ha（前年度比1.4%増）

生産量：2400万トン（同0.6%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：223万トン（同6.8%増）

輸入量：51万トン（同53.9%増）

2018/19年度、砂糖生産量は回復も、引き続き輸入増の見通し

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は42万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかに増加すると見込まれている一方、生産量は、10月の雨量が例年並みだったことから、2400万トン（同0.6%増）とほぼ横ばいで推移すると見込まれている（表8）。砂糖生産量は、サトウキビ生産の増加を受け、223万トン（同6.8%増）とかなり増加するものの、国内消費量を賄うには至らず、砂糖輸入量も51万トン（同53.9%増）と2年度連続の増加が見込まれている。このため、砂糖輸出量は14万トン（同36.0%減）と抑制され、2年度連続での大幅な減少が見込まれている。

フィリピン政府、砂糖の輸入規制を一時的に緩和

フィリピン政府は、小売業者による砂糖の直接輸入を一時的に許可した。ただし、輸入者は輸入した砂糖を1キログラム当たり50ペソ（113円）以下の価格で国内に販売しなければならない。今回の決定は、今年に入り物価が上昇を続ける中、9月に上陸した大型の台風の影響で農作物に被害が出たことで、食品の値上がりがさらに進んだことが背景にある。このため、同国政府は砂糖以外の農産物も輸入規制を緩和したり、フィリピン中央銀行が利上げを実施したりするなどしてインフレ抑制に取り組んでいる。

なお、フィリピン統計庁によると、消費者物価指数上昇率は2018年3月以降、同国政府のインフレ目標（2～4%）を超えて推移しており、10月の食品・飲料（アルコールを除く）の上昇率は9.4%であった。

表8 フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19 (11月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	413	421	418	424	1.4
サトウキビ生産量	23,254	28,052	23,861	24,000	0.6
砂糖	生産量	2,239	2,506	2,225	6.8
	輸入量	441	123	514	53.9
	消費量	2,347	2,353	2,602	2.4
	輸出量	168	283	142	▲ 36.0
	期末在庫量	526	519	168	▲ 3.0
	期末在庫率	20.9	19.7	6.1	0.1 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2018」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。